

ブロック塀点検表

点 検

申請者名：_____

点 検 日：_____

点検項目に従って、点検してください。基本性能値、外観係数、耐力係数、保全係数を求めましょう。

◆基本性能の点検(基本性能値)

点 検 項 目		基準点	評価点
建 築 後 の 年 数	10 年 未 満	10	①
	10 年 以上、20 年 未 満	8	
	20 年 以上	5	
高 さ の 増 積 み	な し	10	②
	あ り	※	
使 用 状 況	塀 単 独	10	③
	土留め、外壁等を兼ねる	0	
基 礎 (塀 下 の 擁 壁 を 含 む)	あ り 良好	10	④
	根入れ深さ等不十分(確認不能)	※	
	な し	※	
塀 の 高 さ	1.2m 以下	15	⑤
	1.2m を 越 え、2.2m 以下	10	
	2.2m を 越 え る	0	
塀 の 厚 さ	15cm 以上	10	⑥
	12cm	8	
	10cm	5	
透 かし ブ ロ ッ ク	な し	10	⑦
	あ り	5	
鉄 筋	あ り	10	⑧
	な し (確 認 不 能)	※	
控 え 壁 ・ 控 柱 ・ 直 交 壁	あ り	10	⑨
	な し	5	
か さ 木	あ り	10	⑩
	な し	5	
基本性能値 (①～⑩の) 評価点の 合計			a

◆壁体の外観点検(外観係数)

点 検 項 目		基準係数	評価係数
全 体 の 傾 き	な し	1.0	⑪
	あ り	0.7	
ひ び 割 れ (亀 裂)	な し	1.0	⑫
	あ り	0.7	
欠 け ・ は く 離 ・ 損 傷 (目 地 割 れ)	な し	1.0	⑬
	あ り	0.7	
著 しい 汚 れ (風 化 ・ 劣 化)	な し	1.0	⑭
	あ り	0.7	
外観係数 (⑪～⑭の最も小さい) 評価係数			b

◆壁体の耐力点検(耐力係数)

点 検 項 目		基準係数	耐力係数
ぐ ら つ き	動 か な い	1.0	c
	わ ず か に 動 く	0.8	
	大 き く 動 く	0.5	

◆保全状況の点検(保全係数)

点 検 項 目		基準係数	保全係数
補 強 ・ 転 倒 防 止 対 策 等 の 有 無	あ り	1.5	d
	な し	1.0	

注) [※印] に該当する項目がある場合の総合評価点は[危険である]と判定します。

※ 1 鉄筋の有無は、感度の良い方位磁石をブロック塀に近づけたときに、針が振れることで確認できます。

2 ぐらつきは、まわりに人がいないのを十分確認して点検してください。

総合評価の算定

点検結果から、総合評価点を求めましょう。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{基本性能値} \\ \hline a \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{外観係数} \\ \hline b \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{耐力係数} \\ \hline C \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{保全係数} \\ \hline d \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{総合評価点} \\ \hline \\ \hline \end{array} \quad \text{※裏面に続く}$$

総合評点

総合評点から、点検結果を判定しましょう。

総合評点	判 定	今後の対応
70 点以上	安全と思われる	3～5 年後にまた点検しましょう
55 点以上～70 点未満	一応安全と思われる	1 年後にまた点検しましょう
40 点以上～55 点未満	注意が必要	精密点検を行い、再度判定するか、転倒防止対策等を講じましょう
40 点未満	危険である	早急に転倒防止対策を講じるか、撤去しましょう

※ 危険ブロック塀等撤去奨励補助金の交付を受ける条件である、「危険性があると認められるブロック塀等」とは、総合評点が55点未満のものです。

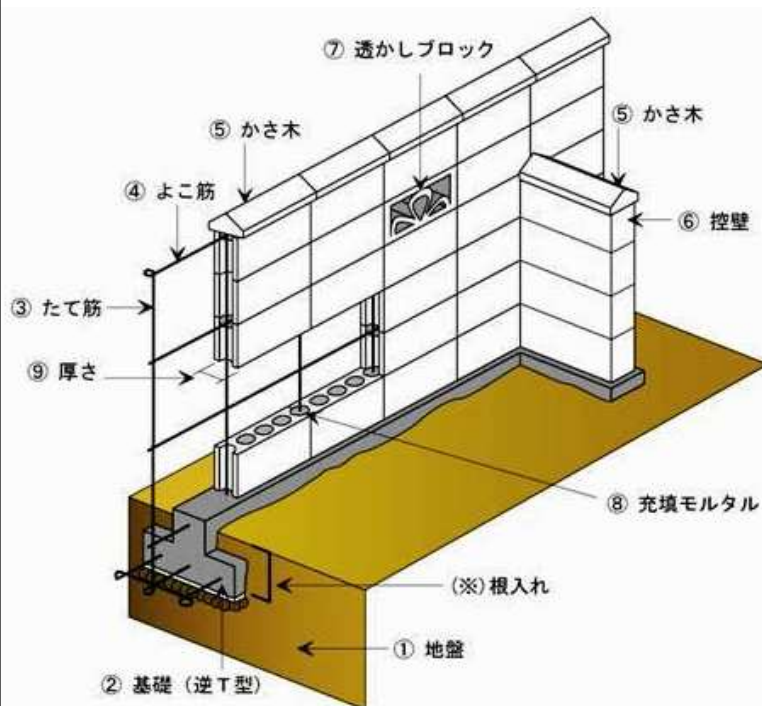
<参考資料>

ブロック塀の基準

ブロック塀については建築基準法に定めがありますが、日本建築学会では建築基準法をふまえ、より細かな数値で「コンクリートブロック塀設計基準」を定めています。

ブロック塀の基準は、日本建築学会基準を引用しています。

ブロック塀の仕組み



- ① **地盤**：地盤は、塀全体を支え、基礎から一体となった塀の転倒に抵抗する役割を果たします。
- ② **基礎**：基礎は、鉄筋コンクリートで堅固に作り、塀本体と一体とし、最低でも 35cm 以上地中に根入れ(※図)して転倒しないようにします。基礎の形状は I 型のほか、抵抗力の大きな L 型、逆 T 型などがあります。
- ③ **たて筋(たて方向の鉄筋)**：たて筋は、横からかかる力(横に押す力)に抵抗する重要なものです。基礎としっかりつなぎましょう。
- ④ **よこ筋(よこ方向の鉄筋)**：よこ筋は、壁体の長さ方向を強固に一体化するもので、控え壁がある場合は、特に重要な役割を果たします。
- ⑤ **かさ木**：塀本体へ雨水等が浸入するのを防ぎ、ブロック及び鉄筋を保護します。
- ⑥ **控え壁**：控え壁は、塀の転倒に対する抵抗力を増すために、長さ 3.4m 以内ごとに設けます。
- ⑦ **透かしブロック**：透かしブロックは、塀に表情を与えますが、透かしブロックを多用すると、壁体の強度を低下させます。できる限り使用しないようにしましょう。
- ⑧ **充填モルタル**：充填モルタルは、鉄筋とブロックを一体化させるもので、強固な壁体を作るとともに、鉄筋を保護する役割を果たします。鉄筋の周辺部にモルタルがしっかりと充填されないと、塀の強度低下や劣化を早めることになります。
- ⑨ **壁の厚さ**：ブロックの厚さを言います。15cm (高さ 2.0m 以下の塀では 12cm) 以上のものを使用してください。

ブロックの種類

